

平成28年度

川崎市自動車運送事業会計決算の概況について

交 通 局

1 平成28年度自動車運送事業会計決算概況

(総括事項)

市バス事業は、市民の大切な公共交通機関として重要な役割を果たしており、安全を第一の使命としつつ、お客様に満足いただける利用しやすいサービスの提供に向けて、持続可能な経営を行うため、経営の効率化に努めております。

平成28年度の経営状況については、支出としては、主に償却対象車両台数の減などによる減価償却費、軽油価格の下落による燃料費がそれぞれ減少したものの、退職給付引当金繰入額の増等による人件費、委託営業所の変更等による経費がそれぞれ増加したことから支出額全体として前年度を上回りましたが、収入としては、乗車料収入が前年度を上回ったことなどにより、収益的収支は前年度に引き続き黒字決算を確保しました。

今後も輸送の安全性を着実に確保するとともに、さらなる経営改善とお客様サービスの向上に取り組んでまいります。

(1) 営業状況

(運輸成績)

事業の根幹である乗車料収入は、乗合乗車料収入と貸切乗車料収入を合わせ 78 億 2,394 万 8,911 円で、前年度と比較して 3,548 万 5,857 円 (0.5%) の増となりました。また、乗車人員は 4,896 万 5,623 人で前年度と比較して 34 万 584 人 (△0.7%) の減となりました。

乗車人員が減となった要因は、平成27年度はうるう年で営業日数が1日多かったこと、及び平成28年度に行った1日乗車券の料金体系の見直しに伴い、乗車人員算定方法が異なる定期券に利用が移行したことによるものです。

(安全な輸送サービスの確保)

お客様に安全・安心な輸送サービスを確実に提供するため、運転手グループ制の活用、ドライブレコーダーの更新などによる5カメラ化、事故防止研修の実施、経路誤り発生箇所をまとめたハザードマップの作成及び全営業所における掲出など、運行管理体制の充実・強化に取り組むとともに、事故の発生を未然に防ぐための取組として、学校における交通安全教室の開催、自転車駐輪場への自転車接触事故に対する注意看板の設置などにより、運輸安全マネジメントを着実に推進しました。

(安心・快適なサービスの充実)

高齢化への対応として、小杉駅東口から労災病院及び井田病院へのアクセス向上のための系統を新設したほか、井田、子母口、蟹ヶ谷方面から横須賀線小杉駅へ、五所塚、平、初山方面から宮前区役所へのアクセス向上に取り組みました。

また、北部地域の輸送需要に対応するため、向ヶ丘遊園駅とたまプラーザ駅を結ぶ路線の本格運行に向けた社会実験を行いました。

バス停留所施設の改善としては、上屋8基、照明付バス停留所標識20基、二面式バス停留所標識20基、停留所ベンチ50脚の整備を行うとともに、GPSと連

動した多言語（英語）対応のタブレット型停留所運行情報表示器を 13 台設置し、市バスの運行情報を提供する「市バスナビ」サービスの充実を図りました。

さらに、柿生線及び犬蔵線において、朝の通勤・通学時間帯、上作団地前停留所及び上作延停留所に案内整理員を配置するとともに、中扉乗車のための簡易料金機を設置し、満員通過の減少に取り組みました。

（経営基盤の充実・強化）

上平間営業所については平成 27 年度に引き続き管理委託による運行を行うとともに、北部地域の輸送需要への対応を図るため、平成 29 年 3 月 26 日から井田営業所を直営から委託に、菅生営業所を委託から直営に管理委託営業所を変更しました。

また、老朽化が著しい上平間営業所については、平成 29 年度の建て替えに向けた実施設計を行いました。

さらに、事業基盤を支える人材について、正規職員の退職動向を踏まえた計画的な採用を実施するとともに、公募嘱託運転手については、配属を希望する営業所での採用選考を実施するなど積極的な人材の確保を図るとともに、運転技能コンクールの開催、模範となる職員への市長表彰等の実施、職員表彰受賞歴のバス車内名刺への掲出など人材の育成を推進しました。

（社会的要請等に対応した事業の推進）

バス車両の購入（6 両）にあたっては、バリアフリーに配慮し、バリアフリー法に適合した低床バスの導入率 100%を維持するとともに、環境に配慮し、より環境負荷の少ないハイブリッドバス（1 両）を増車しました。

また、地域や利用者に親しまれる取組として、市バスキャラクター「ノルフィン」と「ハローキティ」とのコラボレーションによる事業展開を行い、ラッピングバスの運行、家族 1 日乗車券及び限定グッズの販売等を実施しました。また、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアムの開館 5 周年に合わせて、ミュージアム直行バスの大型化・デザインのリニューアル、ドラえもん号のオリジナルトミカの販売等を行いました。更に、市内小学校の児童による絵画作品及び区役所で主催する絵画コンクール作品を掲出したギャラリーバスの増車、安全な市バスイメージ向上のため、市バス♥安全・安心フェスタを初開催したほか、ハロウィン装飾バスの展示、クリスマスイルミネーションバスの運行等を行いました。

（2）経営成績

収益的収支は、事業収益 98 億 1,355 万 9,436 円に対して、事業費用は 95 億 3,249 万 6,936 円で収支差引は 2 億 8,106 万 2,500 円の黒字となり、消費税等を除いた収支差引では、2 億 5,440 万 8,562 円の純利益となりました。この結果、平成 28 年度未処理欠損金は 22 億 9,370 万 231 円となりました。

また、資本的収支は、収入 3 億 1,733 万 9,026 円に対し、支出 7 億 4,901 万 6,063 円で、差引 4 億 3,167 万 7,037 円の不足となり、損益勘定留保資金等で補てんしました。

2 平成28年度自動車運送事業会計決算（総括表）

（単位：円、％）

(1) 予算執行状況(税込)

ア 収入

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
1 収益の収入	10,049,056,000	9,813,559,436	△ 235,496,564	97.7
2 資本の収入	530,923,000	317,339,026	△ 213,583,974	59.8
合 計	10,579,979,000	10,130,898,462	△ 449,080,538	95.8

イ 支出

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
1 収益の支出	9,958,926,000	9,532,496,936	△ 426,429,064	95.7
2 資本の支出	963,615,000	749,016,063	△ 214,598,937	77.7
合 計	10,922,541,000	10,281,512,999	△ 641,028,001	94.1

(2) 総合収支

区分	収入	支出	収支差引
総合収支	10,130,898,462	10,281,512,999	△ 150,614,537

(3) 財源収支

項目	金額	内訳
①総合収支差引額	△ 150,614,537	
②当年度分損益勘定留保資金	172,182,477	減価償却費 286,021,703 固定資産除却損 17,349,202 引当金 △ 87,062,549 長期前受金戻入 △ 44,125,879
合 計 ③ = ① + ②	21,567,940	当年度財源余剰(△不足)額

(4) 累積財源過不足額

前年度末財源余剰(△不足)額	④	5,250,011
当年度財源余剰(△不足)額	③	21,567,940
当年度末財源余剰(△不足)額	④ + ③	26,817,951

(5) 経営成績(税抜)

科目(費用)	金額	科目(収益)	金額
営業費用	8,976,159,490	営業収益	7,935,989,537
営業外費用	66,435,808	営業外収益	1,359,517,592
特別損失	2,164,040	特別利益	3,660,771
総費用	9,044,759,338	総収益	9,299,167,900
当年度純利益	254,408,562	当年度純損失	—
前年度繰越利益剰余金	—	前年度繰越欠損金	2,548,108,793
当年度未処分利益剰余金	—	当年度未処理欠損金	2,293,700,231

3 業務量

(1)乗合自動車事業

区 分	平成28年度		平成27年度		比較増△減	
	数量	1日平均	数量	1日平均	数量	1日平均
期末営業キロ	194.40 km	-	194.70 km	-	△ 0.30 km	-
営業日数	365日	-	366日	-	△ 1日	-
期末在籍車両数	339両	-	335両	-	4両	-
延実働車両数	105,563両	289両	107,468両	294両	△ 1,905両	△ 5両
実車走行キロ	12,983,946km	35,572 km	13,069,656km	35,709 km	△ 85,710 km	△ 137 km
乗車人員	48,735,911人	133,523人	49,077,479人	134,091人	△ 341,568人	△ 568人
増減率					△ 0.7%	△ 0.4%
定期	12,444,976人	34,096人	11,898,530人	32,509人	546,446人	1,587人
うち特別乗車証分	2,814,878人	7,712人	2,819,318人	7,703人	△ 4,440人	9人
定期外	36,290,935人	99,427人	37,178,949人	101,582人	△ 888,014人	△ 2,155人
うち高齢者外出 支援乗車事業分	5,292,422人	14,500人	5,162,164人	14,104人	130,258人	396人
うち障害者外出 支援乗車事業分	2,421,381人	6,634人	2,362,811人	6,456人	58,570人	178人
乗車料収入(税抜)	7,789,487,073円	21,341,060円	7,759,062,128円	21,199,623円	30,424,945円	141,437円
増減率					0.4%	0.7%
定期	1,606,046,014円	4,400,126円	1,532,908,057円	4,188,273円	73,137,957円	211,853円
うち特別乗車証分	409,906,000円	1,123,030円	410,482,840円	1,121,538円	△ 576,840円	1,492円
定期外	6,183,441,059円	16,940,934円	6,226,154,071円	17,011,350円	△ 42,713,012円	△ 70,416円
うち高齢者外出 支援乗車事業分	1,060,767,952円	2,906,214円	1,034,694,448円	2,827,034円	26,073,504円	79,180円
うち障害者外出 支援乗車事業分	272,662,723円	747,021円	260,677,941円	712,235円	11,984,782円	34,786円

(2)貸切自動車事業

区 分	平成28年度		平成27年度		比較増△減	
	数量	1日平均	数量	1日平均	数量	1日平均
営業日数	365日	-	366日	-	△ 1日	-
期末在籍車両数	5両	-	5両	-	0両	-
延実働車両数	593両	2両	529両	1両	64両	1両
実車走行キロ	32,941km	90 km	27,970km	76 km	4,971 km	14 km
乗車人員	229,712人	629人	228,728人	625人	984人	4人
増減率					0.4%	0.6%
乗車料収入(税抜)	34,461,838円	94,416円	29,400,926円	80,330円	5,060,912円	14,086円
増減率					17.2%	17.5%

※ 再掲(単位:人、円)

乗車人員計(乗合+貸切)

乗車人員(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)

特別乗車証分

高齢者外出支援乗車事業分

障害者外出支援乗車事業分

乗車料収入計(乗合+貸切)

乗車料収入(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)

特別乗車証分

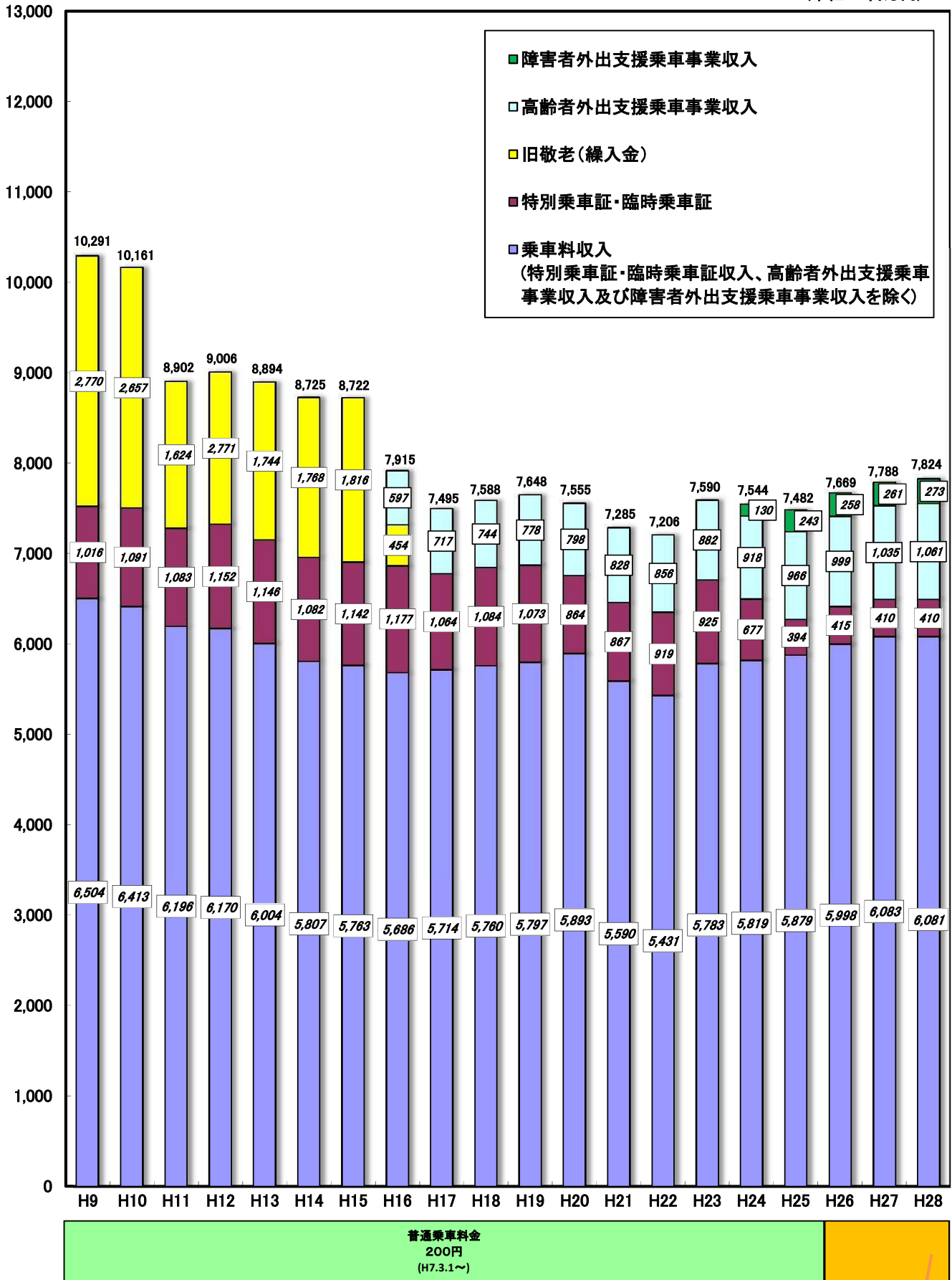
高齢者外出支援乗車事業分

障害者外出支援乗車事業分

	平成28年度	平成27年度	比較増△減	増減率
乗車人員計(乗合+貸切)	48,965,623	49,306,207	△ 340,584	(△ 0.7%)
乗車人員(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)	38,436,942	38,961,914	△ 524,972	(△ 1.3%)
特別乗車証分	2,814,878	2,819,318	△ 4,440	(△ 0.2%)
高齢者外出支援乗車事業分	5,292,422	5,162,164	130,258	(2.5%)
障害者外出支援乗車事業分	2,421,381	2,362,811	58,570	(2.5%)
乗車料収入計(乗合+貸切)	7,823,948,911	7,788,463,054	35,485,857	(0.5%)
乗車料収入(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)	6,080,612,236	6,082,607,825	△ 1,995,589	(△ 0.0%)
特別乗車証分	409,906,000	410,482,840	△ 576,840	(△ 0.1%)
高齢者外出支援乗車事業分	1,060,767,952	1,034,694,448	26,073,504	(2.5%)
障害者外出支援乗車事業分	272,662,723	260,677,941	11,984,782	(4.6%)

4 乗車料収入等（税抜）の推移

(単位 百万円)



普通乗車料金
200円
(H7.3.1~)

普通乗車料金
210円(現金)
206円(IC)
(H26.4.1~)

5 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資金不足比率	経営健全化基準
自動車運送事業会計	— (資金不足となっていない)	20.0%

※資金不足比率は現段階での速報値であり、今後、監査委員の審査を経た上で議会に報告し確定します。